

# 仏教ゆかりの 植物図鑑



松下俊英 文

大島加奈子 絵

は  
じ  
め  
に



今からおよそ二千五百年前、インドで釈迦族の王子として生まれた釈尊（お釈迦さま）は、二十九歳で出家し、三十五歳で覺りを開かれて仏に成り、たくさんの教えを説かれました。仏教の経典を読むと、その教えとともに、様々な植物に出会います。釈尊の誕生にまつわる無憂樹、覺りを意味する名の菩提樹、入滅の時に白い花を咲かせた娑羅樹……。どれも仏教の説話に深くかかわる植物です。

本書では、釈尊の生涯をたどりながら、仏教にゆかりある植物の名前の由来や、その植物にまつわる物語を、色彩豊かな絵とともに紹介していきます。ページをめくりながら、植物のみずみずしい世界に身をゆだねていただき、仏教をたずねることもなれば幸いです。

も  
く  
じ



## I 誕生と出家

無憂樹 — 本当の無憂 08

蓮華 — 覚りのシンボル 12

閻浮樹 — 共なる悲しみ 16

## II 覚りと仏教のはじまり

菩提樹 — 覚りの地 22

ニグローダ — 不死の門を開く 26

竹 — 王様の信仰 30

## III 釈尊の教え

芭蕉 — 諸行は無常 36

末利 — 真実の教え 40

#### IV 入滅と教えの伝統

シロガラシ — 不死の境地 44

マンゴー — 人生の依り拠 48

梅檀樹 — 無根の信 52

娑羅樹 — 釈尊の入滅 58

七葉樹 — 仏弟子たちの領き 62

多羅 — 葉に刻まれた教え 66

アー馬拉カ — 仏と成る願い 70

あとがき 74

物語の関連地図 78



I  
誕生と出家



# 無憂樹

a s o k a

無憂樹は、マメ科の常緑小高木で、インド大陸に広く分布しています。

黄色や赤色の鮮やかな花は、球状に密集して枝の随所に咲き、葉や幹は生薬に用いられます。

釈尊が誕生された時、

ルンビニーの園で美しい花を咲かせていたと言われ、

菩提樹、沙羅樹と並んで

「仏教三大聖樹」の一つとされています。



